

東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム

地域資源の可視化ツール 制作プロジェクト

一般社団法人 新島エリアマネジメント

【新島村について】

新島

人口：1,936名^(R7.2月)

保育園・小中高校1校ずつ

高齢化率41%^(R5.2月)

診療所1軒

くさや / コーガ石 / 新島ガラス / 温泉

式根島

人口：462名^(R7.2月)

保育園・小中学校1校ずつ

高齢化率44%^(R5.2月)

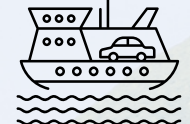
診療所1軒

リアス式海岸 / 温泉 / ワークーション

 東海汽船
大型船 竹芝～
8h30min

 東海汽船
高速船各船 竹芝～
2h30min

 新中央航空
ドルニエ 調布～
35min

 神新汽船
あぜりあ 下田～
3h



NIIJIMA AREA
MANAGEMENT

新島

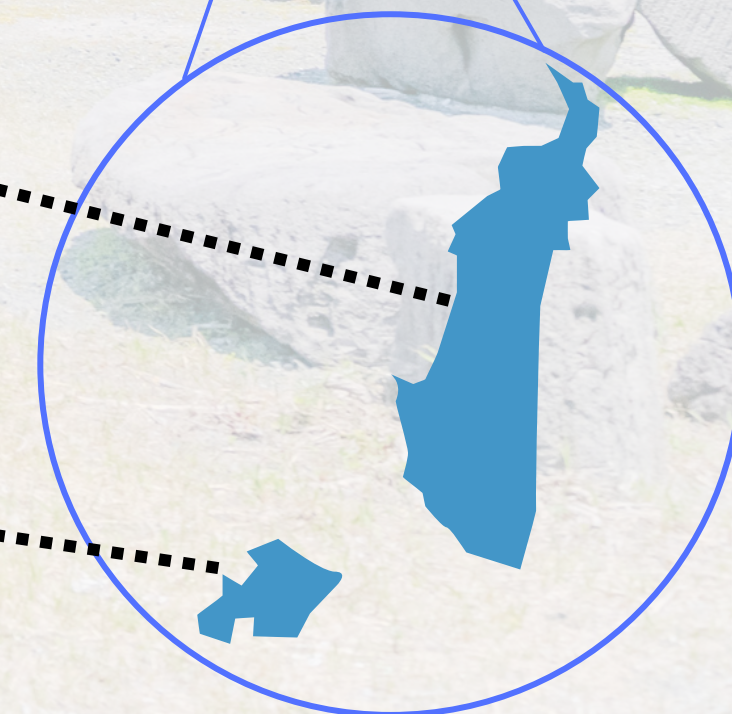
周囲約41.6km

面積約23.85km²

式根島

周囲約12.2km

面積約3.67km²

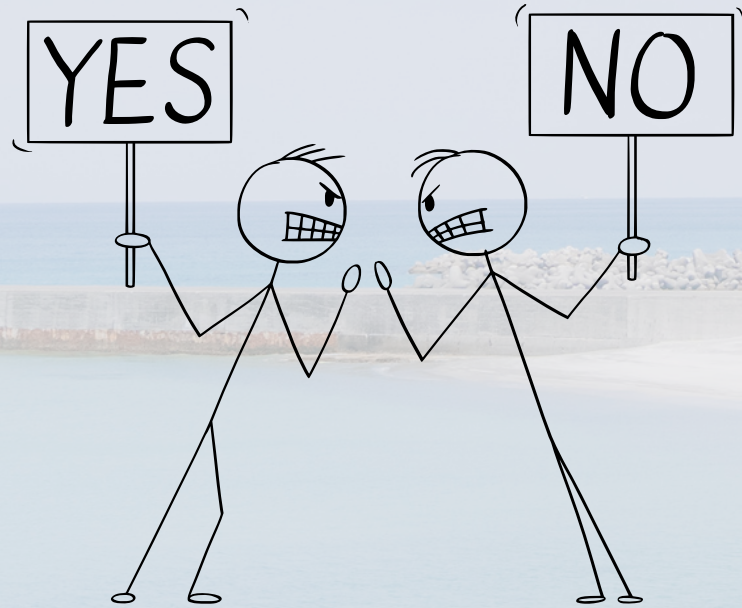


【課題背景】

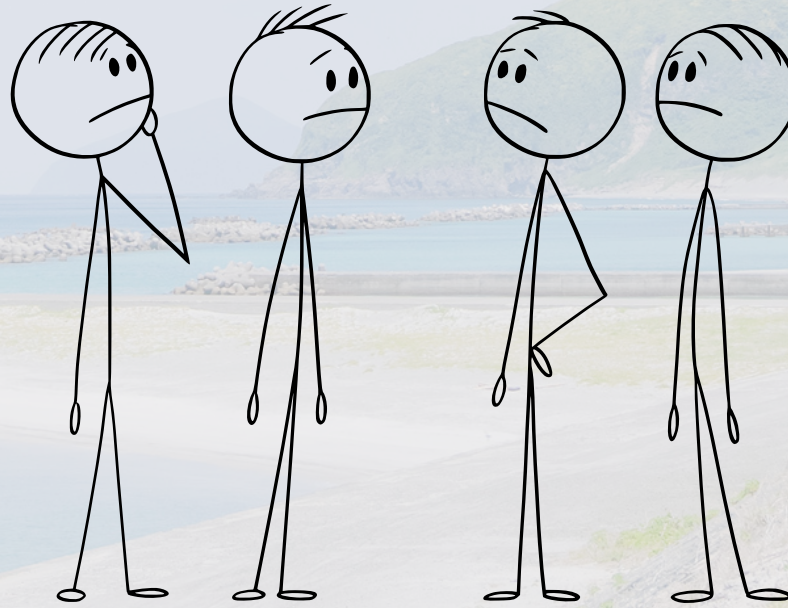
地域には価値ある資源が多数存在するが、誰もそれを体系的に整理できておらず、
地域資源を十分に可視化できていない。

地域資源が可視化されていないことで、地域についての議論が行われる際に、
など、下記のような展開になってしまう現状がある。

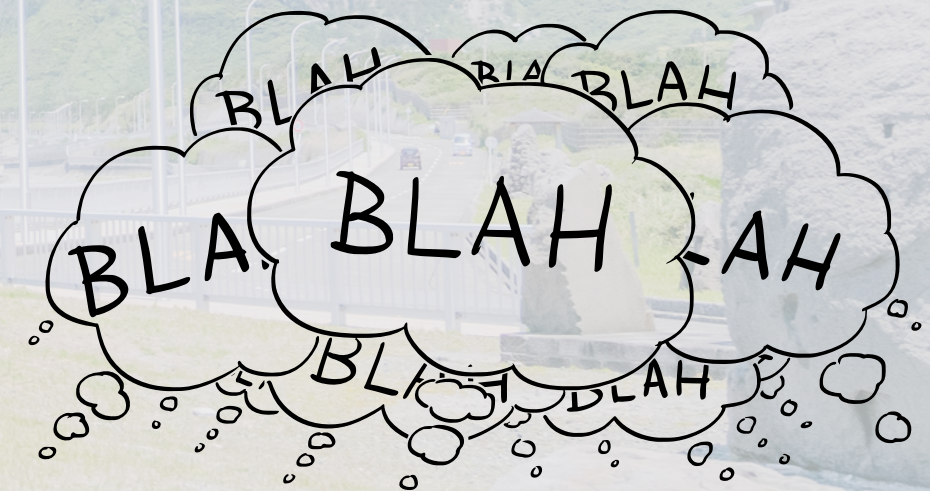
会議が主観の
ぶつけ合いになってしまう



ステークホルダーたちの所属の
壁が越えられず議論が進まない



空中戦の議論が展開され
進展が少ない



対話が促進されるようなツールを開発し、地域の各団体が議論や施策の場で役立てることを目指す。
新島において、多様な立場の人々が共通の認識を持ち、
同じ視点で考えることができる環境を整え、地域資源の価値を最大化を共に目指せる場づくりを行う。

【可視化ツール『資源カード』】

地域に存在する資源（食べ物、文化、自然、人、動物など）を洗い出し、
その特徴や課題を整理しながら、写真付きの「資源カード」として1枚ずつまとめる。
資源カードを制作することをゴールとし、制作プロセスを学生たちと協働し実施していくことを考えている。



レア度：★★★★

食材
大島

『めっかり（くぼがい）』

伊豆大島の磯場でよくとれる貝である「めっかり」はいわゆる地方名。特に夏場の磯でよく取れます。（「めっかり」は漁業権対象となっている為、漁業協同組合員以外の一般の人とはとることはできません）

小型の巻貝で、中の身を取り出すには爪楊枝などで、クルクルと上手に取り出して食べる。比較的小さな貝類だが、磯の旨みをふんだんに含んでいる。



島の食-郷土料理

『べっこう寿司・島寿司』

-eat-
TOKYO
ISLANDS

冷蔵技術のない時代の保存食文化として、魚を醤油（塩分）に漬けて保存する方法があった。その漬けた魚を寿司にしたものが島寿司。その中でも伊豆大島では、ワサビは使わず、漬け液自体に青唐辛子を使い漬け込みます。その黄金色のネタの色から、伊豆大島では「べっこう寿司」と呼ばれ、郷土料理として親しまれています。その他の島では、島唐辛子は使わず、わさびの代わりに洋がらしを使います。

見込まれる成果

- ① 地域の多様な資源の全体像を把握できる。
- ② 「資源カード」は、地域の施策やイベント、教育に活用可能なツールとなる。
- ③ 若者視点からの新しい発見が、地域に新たな価値を提供するきっかけになる。

活用するターゲット

エリアマネジメント関係者、
行政職員、教育機関、外部機関などを含む
島民および関係人口とする。

活用シチュエーションのイメージは
エリアマネジメント×島民や外部機関
行政や民間企業など各団体でのディスカッション
新島高校での探究授業

など。

【参加学生の皆様へ】

資源カードの完成に向けて、学生に期待するのは、
カードの構成やデザイン、制作プロセス、盛り込む内容等について、
学生ならではの気付きや自由な発想、得意な能力等を発揮してもらうことです。

【利用者目線での制作】
単にカードを作成するだけでなく、
デザインや情報の見やすさ
分かりやすさを重視し、
利用者が活用しやすい形で
制作すること。



【創造的な提案】
資源の洗い出しを通じて、
「資源の掛け算」や
「足し算」のような
新しい組み合わせや
アイデアを提案すること。



【Web上での活用】
資源カード+αの表現方法として、
可視化した地域資源をWeb上で
展開し、地域内の機関だけでなく、
島外の人にも届くような発信(メディア・SNS)など。



【AIを活用した発想】
若者らしい柔軟で
フレッシュな発想で、
AIを活用した新しい取り組みや
アイデアを提案すること。



資源カードをゴールとしつつも、表現の仕方については学生の創意工夫を尊重し、
受け入れ側としても、柔軟に対応できる環境を整えていきます。

早い段階でカード制作が纏まった際には
地域住民とのフィールドワークの実施なども検討しております。実際の使用感や改善点を見つけたり、
単なるカード制作にとどまらず、地域の未来に繋がる価値を生み出してほしいと期待しています。

【スケジュール】

